学校番号	402

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ（理型）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「古典Ｂ」古文編・漢文編（三省堂）						
副教材等	最新国語便覧（浜島書店）、体系古典文法（数研出版）、漢文学習必携（京都書房）、わかる・読める・解ける　古文単語３３０（いいずな書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日本及び、中国の著名な「古典文学」作品に親しむと共に、当時の時代背景、場面・状況・心情を理解するために、語彙力・文法力を鍛えましょう。
・本文の「読み」、とりわけ「音読」の大切さを心がけましょう。
・予習として、まずは自身で本文を通読し、全体像を把握しておきましょう。

２　学習の到達目標

・文章の主題や登場人物の心情を的確に捉えて、場面状況をイメージし、古典の本文を正確に現代語訳できるようにする。
・二年間で学んだ古語文法、漢文の句法についての知識を再確認し、初見の古文・漢文の読解にその知識を活用できるようにする。
・読解に必要な古文単語・熟語を覚え、歴史的な文学の流れを体系的知識として身につける。
・漢文訓読に慣れ親しみ、場面状況を的確にイメージし、内容を理解できるようにする。
・表意文字としての漢字への知識を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	古典の世界に興味を持ち、当時の人々の生活、考え方、時代背景を理解しようとしている。	文章の構成や展開に即して主題や要旨を的確に捉え、イメージした事柄を的確に現代語で説明することができる。	古典文法・古文単語・漢文句法・文学史の知識を身につけている。
評価方法	行動の観察	行動の観察 定期考査	行動の観察 記述の確認 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期	随筆	「かたはらいたきもの」 「大納言殿参り給ひて」	○	◎		a:古典世界に興味を持ち、当時の人々の生活や考え方を理解しようとしている。 b:本文に即して場面をイメージできている。	a:行動の観察 b:行動の観察/記述の確認分析/定期考査
	物語	「車争ひ」 「夢の浮橋」	○	◎	○	a:古典世界に興味を持ち、当時の人々の生活や考え方を理解しようとしている。 b:本文に即して場面をイメージできている。 c:古典文法・古典単語・漢文句法を身につけている。	a:行動の観察 b:行動の観察/記述の確認分析/定期考査 c:行動の観察/記述の確認/定期考査/小テスト
	史伝・漢詩	「長恨歌」	○		◎	a:漢文の世界に興味を持ち、歴史や人々の考え方を理解しようとしている。 c:漢文句法の知識を踏まえて、正確に書き下し文や現代語訳ができる。	a:行動の観察 c:行動の観察 記述の確認及び分析 定期考査
後期	物語・評論	「三舟の才」 「肝試し」 「もののあはれ」	○	◎		a:古典世界に興味を持ち、当時の人々の生活や考え方を理解しようとしている。 b:本文に即して場面をイメージできている。	a:行動の観察 b:行動の観察/記述の確認分析/定期考査
	思想	「何必曰利／性猶湍水也」 「天下莫柔弱於水」	○		◎	a:漢文の世界に興味を持ち、歴史や人々の考え方を理解しようとしている。 c:漢文句法の知識を踏まえて、正確に書き下し文や現代語訳ができる。	a:行動の観察 c:行動の観察 記述の確認及び分析 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力　　c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。